

## WHODAS2.0 使用方法

WHODAS2.0 は 36 項目、12 項目版があり、採点方法は面接版・代理人版・自記式版の 3 種類があり、合計すると 6 種類のアプローチから目的にあったものを採用できる。

今回は 12 項目版を使用する。通常の自記式質問紙と同様の要領で実施する。

### WHODAS2.0 の採点

採点方法は 2 種類ある。

#### 単純採点法

通常の尺度の採点と同じく単純加算を行う。通常の研究では単純採点法を使用する。異なる母集団(うつ病 vs.心筋梗塞など)を比較する場合には、複雑採点法を採用することが勧められている。

#### 複雑採点法

WHODAS では健常者の分布が測定されている。その健常群からどの程度逸脱しているかを考慮することができるのが複雑採点法である。

### 36 項目版と 12 項目版の差異

WHODAS2.0 には 1.認知、2.可動性 3.セルフケア 4.他者との交流 5.日常生活 6.社会への参加の 6 領域がある。これらの領域を正確に計測する際には 36 項目版を使用する。12 項目版は領域の得点は正確に計測できないため、合計得点を使用する。

### 36 項目版の問題

36 項目版は性的活動の計測があるため、計測に抵抗感がある可能性がある。また、36 項目版は賃金労働をしていないと就労に関する項目 4 項目を除外して 32 項目での計測になるなど複雑な構成となる。